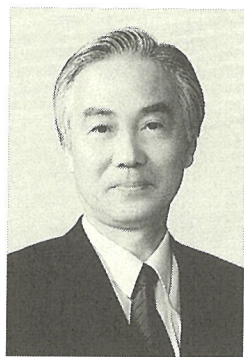


激変の時に直面して

野 本 真 也

(理事長)



昨年十一月二十七日、定例理事会で理事長を務めるよう選任されました。これまでの人生の歩みの中では想像もしていなかった職務であり、神学という専門分野とはあまりにもかけはなれた「経営」や「財政」という責務を担えるかどうか、みずからを顧みて甚だ心もとない次第ではありますが、教職員・校友・同窓をはじめ同志社に連なる皆様方のご指導を賜わり、誠心誠意努めてまいります。

たいと念願しておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

理事会で選任されましたとき、咄嗟のことで最初に何を申し上げてよいのか、とまどってしまいました。そのとき心に浮かんでまいりましたのは、今から十数年前、自動車の運転を習いはじめ、仮免許をもらって教習所の門から一般道路に初めて出るときに感じたあの緊張感でした。そこで、そのことを率直に申し上げさせていたのですが、あれからまだ数ヶ月経った今もまだ全く同

じ緊張感が続いております。新島襄の描いた素晴らしい地図に目的地は示されているわけですが、そこへ向かって行くために、いったい右へ行ったらよいのか左へハンドルを切ったらよいのか、アクセルを思いっきり踏んでもよいのか、ブレーキをかけなければいけないのか、まさに震えながら一つ一つの決断をしているような毎日の連続であります。幸いにして理事の方々はもとより教職員の皆様方からすべてのことにわたって誠に暖かいご教示をいただき、感謝のほかはございません。

同志社は、寄附行為にありますように「キリスト教を徳育の基本とする学校を経営し、もって教育の実を挙げることを目的」としております。このキリスト教主義の教育の実を挙げるという教学と経営とは「車の両輪」のようであればなりません。同志社の歴史が語っているように、現実世界にあつては矛盾に陥らざるを得ないことがしばしばあります。しかしキリスト教主義というのは決して単なる理想主義ではありません。むしろ必要なときには、理念や評判といったものにこだわらず、与えられた使命を自覚して、ことに対処していく精神ではないかと考えております。今、同志社がどのような具体的問題の解決を必要としているのか、現在のわたくしにはまだ定かではありませんが、新島が身をもって教えた十字架の真理こそが同志社の使命である真誠の自由を愛する人びとを生み出すことだけは心に銘記して、そのような教育に携わる「同志」の結集に及ばずながら微力を尽くさせていただきたいと思っております。

今、わたくしたちは国内外の政治状況の急変、バブルの崩壊、進学人口の急減、国際化による価値観の多様化などから生じている激変の時に直面しています。すでに同志社の諸学校ではこのような世紀末に向かつての激変の時に対応するために、いろいろな取り組みがなされています。研究教育機関は、需要と供給の市場原理でいちがいに割り切ることはできませんが、私学にあつてはそれ

を全く無視することもできません。それだけに、諸学校でのご努力とご苦労は大変なものであり、理事会は今まで以上に奉仕と協力をさせていただかなければなりません。そのために現在緊急に必要とされているのは、これまで培ってきた同志社諸学校の自治・自由の精神を基盤にしながら、この困難な時期を乗りきり、二十一世紀への展望を切り開くために、これまで以上に緊密な交流と協力関係を推し進め、可能なことから具体的に一つ一つ実施していくことであろうと思います。

その前提として必要なのは、現状についての共通認識を深めることであり、そのためには何よりもまず正確な情報を交換しあうことではないでしょうか。今ベストセラーになっている『マーフィーの法則』（アスキー出版局）という本の中に「情報は組織の上部にいくにたがって劣化する」というのがあります。同志社では決してそうであってはなりません。教職員の方々の現場での貴重な情報や校友・同窓の方々の豊富な経験にもとづくご意見などが理事会に届かなかつたり歪んで伝わってしまったら、どうして適切な判断を必要な時点での確にくだすことができるでしょうか。同志社諸学校の志す教学の理想を実現していくために、真の意味でサービシうる機関として理事会が機能できるように、何よりもまず理事長室を情報のインターフェイスとしながら業務に携わることにゆめられればと念願しております。

今後のご指導とご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。